

研究主題 **コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力
の育成を目指す小学校外国語科指導の在り方に関する研究**
 —WE-CANシートの開発・活用を通して—
 【1 年次／2 年研究】

【研究 主担当者】 中野 誉史

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

I はじめに

「外国語教育」の変革期

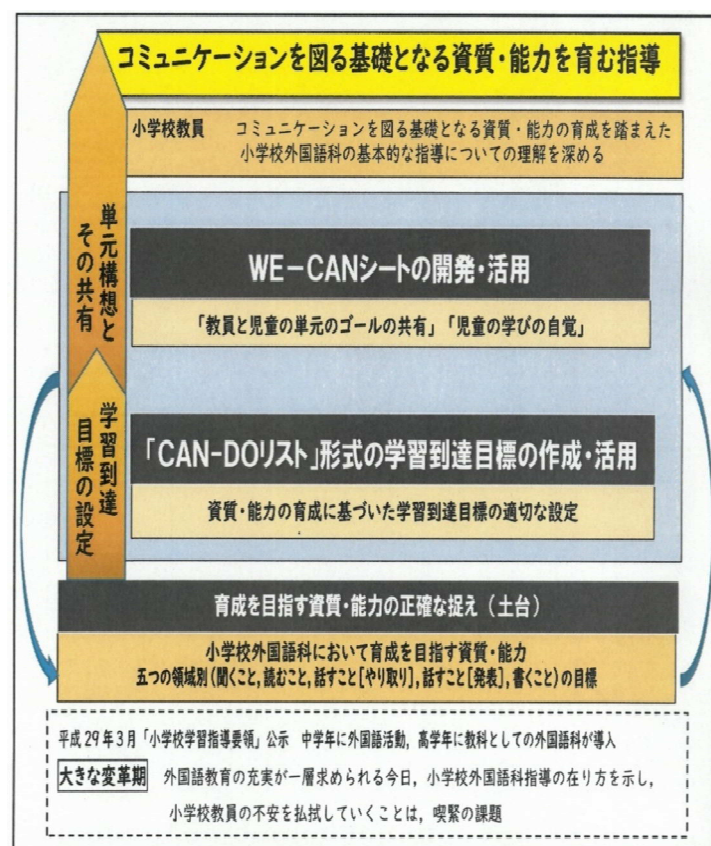
外国語教育は、大きな変革期を迎えようとしています。領域としての外国語活動が導入されてから 10 年程が経とうとしている今、小学校 3・4 年生には領域としての外国語活動を、小学校 5・6 年生には教科としての外国語科を導入しました。中学年から「聞くこと」、「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、高学年から発達の段階に応じて段階的に「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行い、中学校への円滑な接続が図られることとなります。

喫緊の課題

そのような大きな変化の中、小学校の先生方からは、「外国語科の指導と評価は、どのようにしたらいいのだろうか」「読むことや書くことの指導は、どのようにしたらいいのだろうか」といった、新しいことへの不安感があると同時に、大きな変化に対して、間違った解釈のもと、本来の趣旨と違う指導が行われないうちの危惧するところでもあります。外国語教育の充実が求められる今日、小学校外国語科指導の在り方を示し、小学校教員の不安を払拭していくことは、喫緊の課題であると言えます。

本研究において探究するもの

そのような今だからこそ、外国語教育の本質を捉え、新しい学習指導要領の目指すものが岩手のスタンダードとなっていくように、本研究は、第 5 学年及び第 6 学年それぞれにおける五つの領域別目標を適切に設定するとともに、単元など内容や時間のまとまりにおいて資質・能力を育成する指導の在り方について示し、小学校教員が小学校外国語科における基本的な指導についての理解を深めることに役立てようとするものです。



【研究構想図】

研究の目的

本研究は、

- 学年ごとの五つの領域別目標を明確に設定します！
- 単元というまとまりにおいて資質・能力の育成を目指す指導の在り方を示します！

そうすることで、

小学校教員の小学校外国語科における基本的な指導についての理解を深めることを目指します。

報告書 p. 14



「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標って何？

【作成することによる効果】

解説(2017)

○教員が指導と評価の改善に活用することができる！

○目標を共有することにより，児童の主体的に学習する態度を身に付けることができる！

報告書 p. 19

報告書 p. 19

2年間の学習到達目標
(育成を目指す資質・能力)

6年生の学年の「CAN-DOリスト」形式の領域別学習到達目標

6年生の学期ごとの
「CAN-DOリスト」形式の
領域別学習到達目標

5年生の学年の
「CAN-DOリスト」形式の
領域別学習到達目標

5年生の学期ごとの
「CAN-DOリスト」形式の
領域別学習到達目標

【手立て②】「WE-CANシート」の開発・活用

「WE-CANシート」って何？

このシートは、「教員と児童の単元のゴールの共有」と「児童の学びの自覚」という視点から作成したものです。児童にとっては主体的な学びを生むと共に、教員にとっては単元をまとまりとした指導構想を生み出すことをねらいとしています。

【「単元のゴールの共有」の必要性】

単元など内容や時間のまとまりを見通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現 → 具体的な課題等を設定
解説(2017)

単元で付けたい力を明確に設定し、それを児童と共有することが主体的な学びにつながります。

【「学びを自覚すること」の必要性】

各単元や各時間の指導に当たって、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること
解説(2017)

自らの学びを自覚することで、主体的に学習に励むことが期待されます。

【「単元のゴールの共有」の効果】

- 単元のゴールを児童と共有
→ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて
- 単元全体の中での本時の位置付けを意識
→ 見通しをもった学び
→ 自己の学習の振り返り

【「学びを自覚すること」の効果】

- 学びの過程をメタ認知 → 自己効力感
- 児童が自らの変化に気付く → 主体的な学習

本研究で開発した「WE-CANシート」の内容構成

① 単元の 目標 (資質・能力)

単元の内容に合わせて、単元で育成する資質・能力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱）を明確にする。

② 単元のゴールとなる言語活動

最終的に目指す児童の具体的な姿をイメージし、「伝える」という目的の基に行われる単元における最終的な言語活動を明確にする。

③ 単位時間ごとのゴール

バックワードデザインの考え方により、単元のゴールへのつながりを考え、単位時間における重点的な言語活動を明確にする。

Unit 5 She can run. He can sing well.		Class ()	No. ()	Name ()
日 時	自分や自分以外の人のできることやできないことを聞いたり言ったりしよう。自分や自分以外の人のできることやできないことを自分のことも交えながら伝え合おう。相手に伝わるように大きな声で、できることやできないことを紹介しよう。	ゴール We Can!	できることやできないことを発表し合おう。 ★○○先生のできることやできないことを、自分のことも交えながら紹介しよう。	
単 元	今日のWe Can!	No. 1	今日の活動の感想を書きましょう。 (会話の楽しさや友だちのよいところ、新しい発見等)	
1	WE CAN! 「I can run.」 「I can't run.」 「I can't run.」という表現を知ろう。	1	1	1
2	WE CAN! 「I can't run.」 「I can't run.」という表現を知ろう。	2	2	2
3	WE CAN! 「I can't run.」 「I can't run.」という表現を知ろう。	3	3	3
4	WE CAN! 「I can't run.」 「I can't run.」という表現を知ろう。	4	4	4
5	WE CAN! 「I can't run.」 「I can't run.」という表現を知ろう。	5	5	5
6	WE CAN! 「I can't run.」 「I can't run.」という表現を知ろう。	6	6	6
7	WE CAN! 「I can't run.」 「I can't run.」という表現を知ろう。	7	7	7
8	WE CAN! 「I can't run.」 「I can't run.」という表現を知ろう。	8	8	8
9	WE CAN! 「I can't run.」 「I can't run.」という表現を知ろう。	9	9	9
10	WE CAN! 「I can't run.」 「I can't run.」という表現を知ろう。	10	10	10

④ 単位時間ごとの学びの足跡を英文で残させる欄

各単位時間の重点となる表現を明確にする。また、自己表現させる際のサポートする機会として活用する。

各単位時間の学びの足跡を、単位時間ごとの目標に即した「書く活動」のもと、英文を書き残させ蓄積させていくものとする。毎時間使用しなければならないものではない。

⑤ 単位時間ごとの振り返りを行わせる欄

各単位時間の児童の学びの状況を確認する一助とする。

各単位時間の学びの足跡を児童に選択式と自分の言葉とで書き残させるものとする。

Ⅳ 【実践例】「WE-CANシート」の活用

今年度は、研究協力校の小学校5年生と6年生、それぞれ一単元ずつの実践を行いました。

実践事例1 小学校5学年(平成30年10月実施)

【単元名】「Unit 5 She can run fast. He can sing well.」

【学校名】一関市立萩荘小学校

【児童数】第5学年 31名(男17名, 女14名)

【授業者】寿時 富直 教諭(学級担任)

実践事例2 小学校6学年(平成30年10月実施)

【単元名】「Unit 5 My Summer Vacation 夏休みの思い出」

【学校名】一関市立萩荘小学校

【児童数】第6学年 28名(男13名, 女15名)

【授業者】平澤 由佳 教諭(学級担任)

本実践において児童が記入した「WE-CANシート」

WE-CANシート (Unit 5: She can run fast. He can sing well.)

今日のWe Can!

I can run. can

I can swim. swim

Can you jump?

I can't play the piano.

He / She can sing well.

Can he / she swim well?

He can play the piano.

He can play the piano.

WE-CANシート (Unit 5: My Summer Vacation 夏休みの思い出)

今日のWe Can!

I went to the park.

It was exciting.

I went to the park. It was exciting.

I ate (karage). (It was delicious.)

I enjoyed (craft).

I enjoyed craft. It was exciting.

教員にとっての有用性

- ① 単元のゴールが明確になる。
- ② 単元全体を見通した指導につながる。
- ③ 各単位時間の重点が明確になる。
- ④ 各単位時間の位置付けが明確になる。
- ⑤ 児童の学習状況を把握し、個別対応に生かせる。

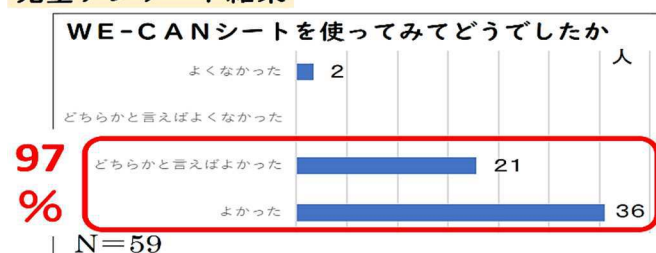
教員にとっての課題

- ① 「今日のWe Can!」(英語を書かせる欄) → 何を書かせるかが重要
- ② 「振り返り」(選択式) → 振り返りの項目の吟味
- ③ 「感想」(記述式) → 記述させる視点の吟味

児童にとっての有用性

- ① 単元の初めにゴールを提示することで、学習する意欲や必要感を高める。
- ② ゴールに向かって各時間がつながっていることを自覚できる。
- ③ 大事なポイントを児童自ら意識できる。
- ④ 達成感につながり、自分の成長を感じる。
- ⑤ お助けシートとしての役割を果たす。

児童アンケート結果



Ⅴ 来年度に向けて

- 「CAN-DOリスト形式の学習到達目標」 → 実践を通して、有用性を検証する。
- 「WE-CANシート」 → 複数校における実践を通し、改良する。
- 小学校外国語科の指導と評価の在り方を示す。

- 本研究で取り組みました研究成果を報告書としてまとめておりますので、ぜひご覧ください。
- 本研究の報告書と「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の例及びWE-CANシートは、下記の岩手県立総合教育センターのWebページに掲載しております。ぜひご活用ください。

研究成果物の掲載アドレス

<http://www.i.wate-ed.jp/kankou/kkenkyu/174cd/h30ken.html>